


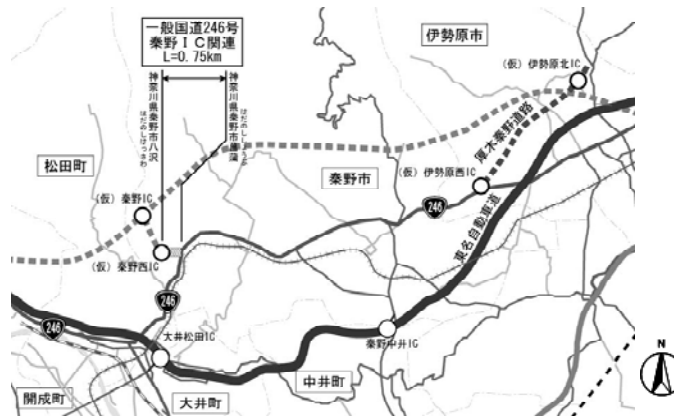
再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道246号 ^{はだの} 秦野IC関連	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自： ^{かながわけんはだのしはっさわ} 神奈川県秦野市八沢 至： ^{かながわけんはだのししよぼう} 神奈川県秦野市菖蒲	延長	0.75km		
事業概要 秦野IC関連は、第二東海自動車道へのインターチェンジ接続を目的とした延長約0.8kmの道路事業である。秦野IC関連が整備されることにより、秦野市域の国道246号周辺から第二東海自動車道へのアクセスが確保され、また、第二東海自動車道、さがみ縦貫道路、厚木秦野道路との広域的に形成された自動車専用道路ネットワークと接続されることによって、これらの地域の経済・文化・産業の発展に寄与する。					
H13年度事業化		H8年度都市計画決定		用地（未着手）	
工事（未着手）					
全体事業費	約51億円	事業進捗率	3%	供用済延長	0km
計画交通量	4,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 36/38億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 134/134億円	
	(残事業)	事業費：33/35億円 維持管理費：2.8/2.8億円		基準年 平成22年 走行時間短縮便益：94/94億円 走行費用減少便益：26/26億円 交通事故減少便益：14/14億円	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量：B/C= 3.2~4.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C= 3.5~4.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C= 3.5~3.9（事業期間±20%）					
事業の効果等 (1) 交通混雑の緩和：国道246号秦野市内では全国平均の約8倍の渋滞が発生しており、秦野IC関連の整備により、通過交通が新東名に転換され国道246号の渋滞緩和が見込まれる。 (2) 日常活動圏中心都市へのアクセス性が向上：秦野市から厚木市、伊勢原市への移動時間が約19分短縮される。					
関係する地方公共団体等の意見 ・神奈川県知事の意見：国道246号の秦野インターチェンジ関連事業は、県土の骨格を形成する新東名高速道路と国道246号を接続する大変重要な事業であり、交通の円滑化や利便性の向上、地域の発展、経済の活性化などに寄与するため本事業を強力に推進されたい。					
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 第二東海自動車道の整備が進められており、インベスト神奈川による地域産業の活性化支援が展開中である。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成22年度より用地幅杭設置に着手。引き続き、第二東海自動車道の事業進捗に併せて、平成32年度供用を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 第二東海自動車道の事業進捗に併せて同時供用を目指す。					
施設の構造や工法の変更等 ー					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。				

事業概要図

凡 例	
	供 用 中
	事 業 中
	再 評 価 箇 所



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。